厚生労働省　慢性疼痛診療システム均てん化等事業

関東甲信越地区 事業報告書

－ 令和 5 年（2023年）度 －

申請法人：学校法人順天堂

■□ 代表担当者 □■

井関　雅子

順天堂大学医学部附属順天堂医院
麻酔科学・ペインクリニック講座/ 疼痛制御学講座 併任

■□ 連携施設と代表担当者 □■

慶應義塾大学医学部附属病院	小杉　志都子
千葉大学医学部附属病院	大鳥　精司
獨協医科大学病院	山口　重樹
新潟大学医歯学総合病院	木村　慎二
横浜市立大学附属市民総合医療センター	北原　雅樹
東京慈恵会医科大学附属病院	倉田　二郎
善衆会病院	恩田　啓

目 次

はじめに …… 3

関東甲信越地区 慢性疼痛診療体制 …… 4

順天堂大学医学部附属順天堂医院 …… 9

慶應義塾大学医学部附属病院 ……18

千葉大学医学部附属病院 ……22

獨協医科大学病院 ……25

新潟大学医歯学総合病院 ……29

横浜市立大学附属市民総合医療センター ……35

東京慈恵会医科大学附属病院 ……42

善衆会病院 ……44

はじめに

慢性疼痛とは、国際疼痛学会において、「3ヶ月以上持続するまたは繰り返す痛み」と定義されています。本邦における慢性疼痛保有率は約30%で、神経障害性疼痛保有率は約7%と報告されており、痛みの長期化により日常生活への支障、情緒面への影響から生活の質が低下することも知られています。そのため、高齢者においては自立支援の観点から、若中年者においては就学や就業を維持する目的で、慢性疼痛を緩和することは非常に重要です。一方で、様々な要因か絡み合うことで、痛みが複雑化していくことも明らかにされております。さらに疼痛機序に関しては、侵害受容性と神経障害性疼痛に加えて痛覚変調性疼痛という概念が確立されつつあります。そこで慢性疼痛の診療において、よりいっそう多面的評価と多職種チーム医療の実現と推進が望まれています。なお、がん治療の進歩によりがんサバイバー（がんは完治、治療中など全てのがん罹患経験者）は年々増加しており、がんサバイバー の抱える慢性疼痛に関しても、サポートしていく体制が望まれています。 これらの社会的ニースに応えるために、関東甲信越地区の痛みセンターでは、相互協力と各地域での連携を強固にすることで、令和5年度の本事業を進めてまいりました。

本事業の遂行にあたり、ご協力くださいました全ての方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

2024 年 3 月 吉日

厚生労働省　慢性疼痛診療システム均てん化等事業
関東甲信越地区 代表担当者

井関　雅子

順天堂大学医学部附属順天堂医院
麻酔科学・ペインクリニック講座/ 疼痛制御学講座併任

関東甲信越地区 慢性疼痛診療体制

令和5年度の慢性疼痛診療体制に参画する痛みセンター及び連携機関は以下となる。

1.【 痛みセンター 】

①：（施設名）順天堂大学附属順天堂医院

（診療科）麻酔科・ペインクリニック（整形外科　脳外科　脳神経内科　精神科　理学療法科連携）

（職　種）医師　臨床心理士　理学療法士　作業療法士　看護師

②：（施設名）東京慈恵医科大学病院

（診療科）ペインクリニック：麻酔科(精神科　理学療法科　他科連携）

（職　種）医師　臨床心理士　理学療法士　看護師

③：（施設名）横浜市立大学附属市民総合医療センター

（診療科）ペインクリニック：麻酔科（精神科　理学療法科　他科連携）

（職　種）医師　臨床心理士　理学療法士　看護師

④：（施設名）獨協医科大学病院

（診療科）麻酔科（精神科　理学療法科　他科連携）

（職　種）医師　臨床心理士　理学療法士　看護師

⑤：（施設名）千葉大学医学部附属病院

（診療科）痛みセンター：整形外科（精神科　リハビリテーション科　他科連携）

（職　種）医師　臨床心理士　理学療法士　看護師

⑥：（施設名）新潟大学医歯学総合病院

（診療科）リハビリテーション科（精神科　理学療法科　他科連携）

（職　種）医師　臨床心理士　理学療法士　看護師

⑦：（施設名） 慶應義塾大学医学部附属病院

（診療科）痛みセンター：麻酔科（精神科　理学療法科　他科連携）

（職　種）医師　臨床心理士　理学療法士　看護師

⑧：（施設名） 善衆会病院

（診療科）リハビリテーション科（整形外科　麻酔科　内科）

（職　種）医師　臨床心理士　理学療法士　看護師

2.【 連携機関 】

①：（施設名）順天堂大学大学院附属練馬病院
（診療科）麻酔科・ペインクリニック（関連科連携可能）
（職　種）医師　理学療法士　看護師

②：（施設名）順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター
（診療科）麻酔科・ペインクリニック（関連科連携可能）
（職　種）医師　理学療法士　看護師

③：（施設名）順天堂大学医学部附属静岡病院
（診療科）麻酔科・ペインクリニック（関連科連携可能）
（職　種）医師　臨床心理士　理学療法士　看護師

④：（施設名）東京医科大学病院
（診療科）麻酔科（関連科連携可能）
（職　種）医師　理学療法士　看護師　薬剤師

⑤：（施設名）日本大学病院
（診療科）麻酔科（関連科連携可能）
（職　種）医師

⑥：（施設名）日本大学歯学部付属歯科病院
（診療科）ペインクリニック科（関連科連携可能）
（職　種）歯科医師　歯科衛生士

⑦：（施設名）日本大学医学部附属板橋病院
（診療科）痛みセンター：麻酔科（精神科 ＊必要に応じて他科連携）
（職　種）医師　看護師　薬剤師　専属事務

⑧：（施設名）東京都立墨東病院
（診療科）麻酔科（関連科連携可能）
（職　種）医師　看護師

⑨：（施設名）東京都立駒込病院
（診療科）麻酔科（関連科連携可能）
（職　種）医師　看護師

⑩：（施設名）要町病院
（診療科）緩和医療　ペインクリニック：麻酔科
（職　種）医師　看護師　理学療法士

2.【 連携機関 ･･ 続き 】

⑪ :（施設名）横浜市立大学病院
（診療科）麻酔科（関連科連携可能）
（職　種）医師

⑫ :（施設名）医療法人 八千代病院
（診療科）精神科　ペインクリニック科
（職　種）医師　看護師　臨床心理士

⑬ :（施設名）長岡中央総合病院
（診療科）整形外科　リハビリテーション科　麻酔科（関連科連携可能）
（職　種）医師　理学療法士　看護師

⑭ :（施設名）新潟リハビリテーション病院
（診療科）整形外科　リハビリテーション科
（職　種）医師　理学療法士　看護師　臨床心理士

⑮ :（施設名）西新潟中央病院
（診療科）整形外科　リハビリテーション科（関連科連携可能）
（職　種）医師　理学療法士　看護師

⑯ :（施設名）東京慈恵会医科大学附属葛飾医療センター
（診療科）麻酔科（関連科連携可能）
（職　種）医師

⑰ :（施設名）東東京慈恵会医科大学附属柏病院
（診療科）麻酔科（関連科連携可能）
（職　種）医師

⑱ :（施設名）東東京慈恵会医科大学附属第3病院
（診療科）麻酔科（関連科連携可能）
（職　種）医師

⑲ :（施設名） 獨協医科大学日光医療センター
（診療科）麻酔科（関連科連携可能）
（職　種）医師　看護師

⑳ :（施設名） 佐野厚生総合病院
（診療科）麻酔科（関連科連携可能）
（職　種）医師　看護師

2.【 連携機関 ･･ 続き 】

㉑ :（施設名） 那須赤十字病院
（診療科）麻酔科（関連科連携可能）
（職　種）医師　看護師

㉒ :（施設名）獨協医科大学埼玉医療センター
（診療科）麻酔科（関連科連携可能）
（職　種）医師　看護師

㉓ :（施設名）古河赤十字病院
（診療科）麻酔科（関連科連携可能）
（職　種）医師　看護師

㉔ :（施設名） 立原医院
（診療科）ペインクリニック
（職　種）医師　看護師

㉕ :（施設名） 両国きたむら整形外科
（診療科）ペインクリニック　整形外科
（職　種）医師　看護師　理学療法士

㉖ :（施設名） 社団法人 心の会 三輪医院
（診療科）精神科
（職　種）医師　看護師　臨床心理士

㉗ :（施設名） 慶成会歯科医院
（診療科）歯科
（職　種）歯科医師　歯科衛生士

㉘ :（施設名） ながたクリニック
（診療科）整形外科　リハビリテーション科　皮膚科
（職　種）医師　看護師　理学療法士

3.【口腔顔面痛学会18研修施設】

＊一覧表添付：以前より連携機関である⑥日本大学歯学部を含む
（診療科）歯科 （職種）歯科医師　歯科衛生士

地域	施設名	部署名
茨城県	独立行政法人国立病院機構霞ヶ浦医療センター	歯科口腔外科
埼玉県	明海大学歯学部付属明海大学病院	歯科麻酔科
千葉県	日本大学松戸歯学部付属病院	口・顔・頭の痛み外来
	東京歯科大学市川総合病院	歯科・口腔外科
	国際医療福祉大学成田病院	歯科口腔外科
東京都	東京医科歯科大学歯学部附属病院	ペインクリニック
	東京歯科大学水道橋病院	ペインクリニック科 口腔顔面痛みセンター
	慶應義塾大学病院	歯科・口腔外科
	日本大学歯学部付属歯科病院 ＊連携機関⑨	ペインクリニック科
	日本歯科大学附属病院	口腔顔面痛センター
	大森・東京歯科口腔外科	
	昭和大学歯科病院	顎関節症治療科
神奈川県	鶴見大学歯学部附属病院	歯科麻酔科
	国家公務員共済連合会横浜栄共済病院	歯科口腔外科
	川崎市立井田病院	歯科口腔外科
	神奈川歯科大学附属病院	歯科医科連携センター
	神奈川歯科大学附属病院	口腔顔面痛みしびれ診療科
新潟県	新潟大学医歯学総合病院	歯科麻酔科診療室

順天堂大学医学部附属順天堂医院の取り組み

代表者：井関　雅子

順天堂大学医学部 麻酔科・ペインクリニック講座
順天堂大学大学院 医学研究科疼痛制御学

1. 連携機関施設

以下に、順天堂医院のペインクリニック（痛みセンター）との直接医療連携施機関を示す。

機関名	職種　職位	氏名
順天堂大学大学院附属練馬病院 麻酔科	医師・准教授	田邉　豊
順天堂大学医学部附属 順天堂東京江東高齢者医療センター	医師・教授	山口　敬介
都立墨東病院 麻酔科	医師・部長	臼田　岩男
都立駒込病院 麻酔科	医師・部長	佐藤　洋
日本大学歯学部付属歯科病院	歯科医師・教授	野間　昇
東京医科大学病院	医師・教授	内野　博之

2. 順天堂医院ペインクリニック（痛みセンター）の協力者

院内診療にあたっては、特に、理学療法科・整形外科・脊髄脊椎センター・脳神経外科・脳神経内科・ 緩和ケアセンターとの連携診療や各種疼痛カンファレンスを施行している。その他の診療科とも連携を施行している。

以下に臨床と研修会を中心とした協力者を示す。

所属	職種　職位	氏名
順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座	医師・教授	山口　敬介
順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座	医師・准教授	山田　恵子
順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座	医師・助教	原　厚子
順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座	医師・助教	千葉　聡子
順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座	医師・助教	濱岡　早枝子
順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座	医師・助手	河合　愛子
順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座	医師・助手	池宮　博子
順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座	医師・助手	西田　茉那
順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座	医師・助手	河内　順
順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座	医師・助手	後藤　友里
順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座	医師・非常勤助手	菊地　暢子
順天堂大学医学部麻酔科・ペインクリニック講座	医師・非常勤助手	清水　礼佳
順天堂大学大学院医学研究科疼痛制御学	臨床心理士	村上　安壽子
順天堂大学医学部附属順天堂医院 リハビリテーション室	理学療法士	北原　エリ子
順天堂大学医学部附属順天堂医院 リハビリテーション室	理学療法士	会田　記章
順天堂大学医学部附属順天堂医院 看護部	看護師	黒田　妙子
順天堂大学大学院医学研究科疼痛制御学	研究生	藤井　百合子

3. 本年度目標としたもの

1）慢性疼痛診療均てん化のための病診連携：在宅との連携

2）慢性疼痛診療を推進擦るための多職種育成

① 厚生労働行政推進調査事業費 慢性の痛み政策研究事業との連携
：慢性疼痛診療ガイドライン普及のための研修会の共催

② 慢性疼痛診療を均てん化するための研修会：日本痛み財団と協力

3）患者の立場を理解した慢性疼痛診療の均てん化の推進

4）医科歯科領域の連携と相互理解の推進

5）慢性疼痛診療に必要な専門性の高い分野に関する知識の普及

4. 具体的内容

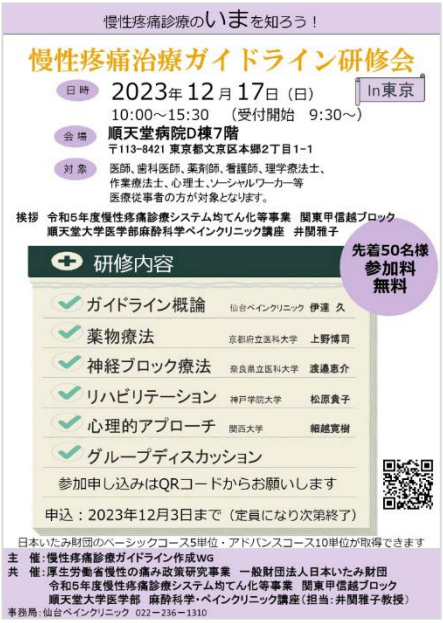
1）慢性疼痛診療均てん化のための病診連携：在宅との連携

高齢女性・腰椎手術既往歴のある腰下肢慢性疼痛に対する、当科と在宅訪問ステーションの両者間で症例カンファレンスを開催、①痛みの評価、②本患者の抱える問題点、③今後のアプローチ法、などを痛みセンター医師、心理士、在宅訪問看護師、在宅訪問理学療法士、などがどのように関わり、連携していくべきかを議論した。現在も連携をとりながらフォローしている。今後このようなネットワークづくりをさらに拡げていく予定である。

2）慢性疼痛診療を推進擦るための多職種育成

① 厚生労働行政推進調査事業費 慢性の痛み政策研究事業との連携：慢性疼痛診療ガイドライン研修会の共催

厚生労働行政推進調査事業費 慢性の痛み政策研究事業で作成した慢性疼痛診療ガイドラインの普及のための研修会に共催して、多職種育成のための機会とした。24名の受講者をグループ分けし、それぞれにファシリテーターも入れて午前は座学でさまざまな分野の疼痛治療を学び、午後を提示した症例に対するグループデイスカッションを施行し、各グループから発表を行った。



② 慢性疼痛診療を均てん化するための研修会
：日本いたみ財団の協力を得て、多職種育成のために研修会を開催

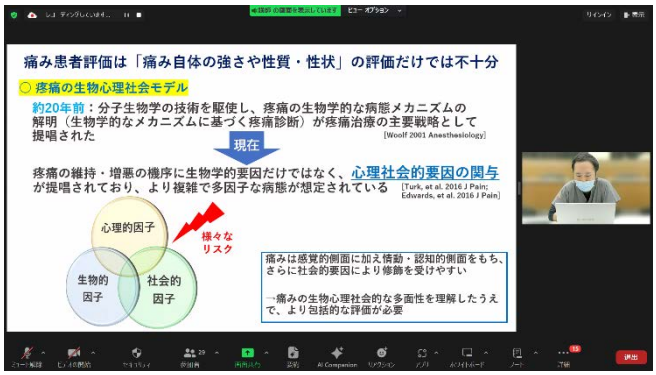
慢性疼痛診療研修会　2024年 2月 3日（土）開催

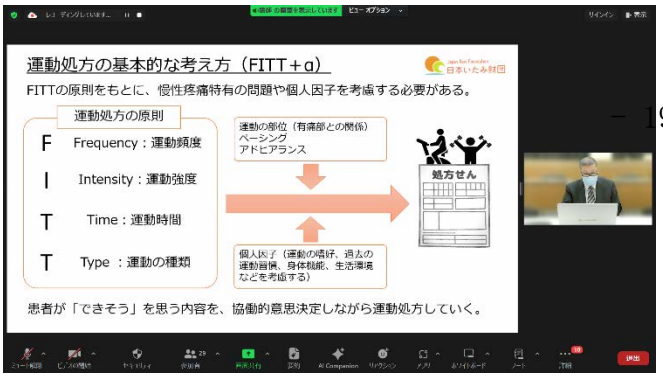
<u>オーガナイザー</u>：
山口　敬介
順天堂東京江東高齢者医療センター　麻酔科・ペインクリニック

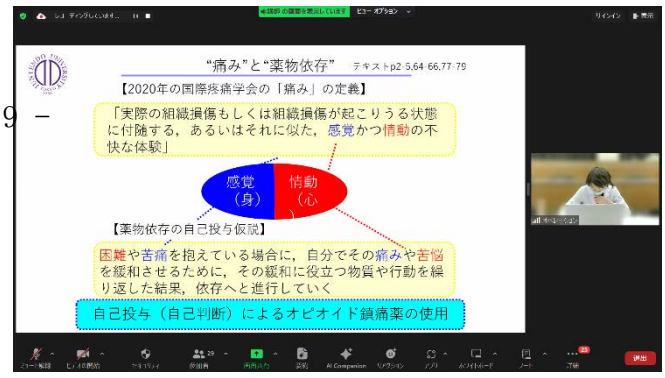
<u>講 師</u>：
山口敬介、山田恵子、濱岡早枝子、河内順、村上安壽子、会田記章

<u>ファシリテーター</u>：
山田恵子、濱岡早枝子、河内順、村上安壽子、会田記章

<u>受講者内訳：職種別人数</u>：参加者数 22名
医師7名、歯科医師1名、看護師7名、理学療法士1名、薬剤師3名、臨床工学士2名、医療事務1名







● 令和5年度 順天堂大学 慢性疼痛診療研修会を主催して

順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター　麻酔科・ペインクリニック
山口　敬介

2024年2月3日（土）、一般社団法人日本いたみ財団のプログラムによる 厚生労働省 慢性疼痛診療システム均てん化等事業 関東甲信越地区 順天堂大学主催 慢性疼痛診療研修会を開催した。新型コロナ感染症の5類移行後であったが、昨年に引き続きオンライン開催となった。事前に疼痛医学のテキストを配布し、当日は講義とZoomブレークアウトルーム機能を利用しての症例検討グループディスカッション形式で行われた。グループディスカッションでは、ファシリテーターを含む3-6人程度のグループに分かれて、提示された症例についての検討と意見交換を行った。多職種の参加があり、活発な意見が提案されて充実したディスカッションが施行できた。

今回は、順天堂東京江東高齢者医療センター職員を中心に、メーリングリストなどを利用し幅広く参加者を募った。医師（内科、麻酔科、産婦人科）、歯科医師、薬剤師、看護師、臨床工学士、医療事務職など幅広い職種の参加者が集まった。当初27人の応募があったが、当日の参加者は22人であった。また、完結型研修会であることの周知が不徹底であったため、途中退座の参加者が数名発生したことは反省点である。

当センターでは高齢患者が多く、運動器疼痛を含めた慢性疼痛患者の割合も高い。高齢者医療に関わる全ての職種が、高齢者の特徴と慢性疼痛の基礎的な知識を持ち、生活者としての視点を持ち合わせることが重要である。運動器疼痛のみならず、口腔顔面疼痛を含めたあらゆる慢性疼痛疾患者の特性を十分理解することが大切であり、今後の研修への参加者が増えることを望む。今後は、本事業の目的の一つである地域連携構築にも力を入れ、地域における疼痛治療の中核としての役割を拡大させていきたいと考えている。

次回は是非対面形式での開催を検討したい。

3）患者の立場を理解した慢性疼痛診療の均てん化の推進

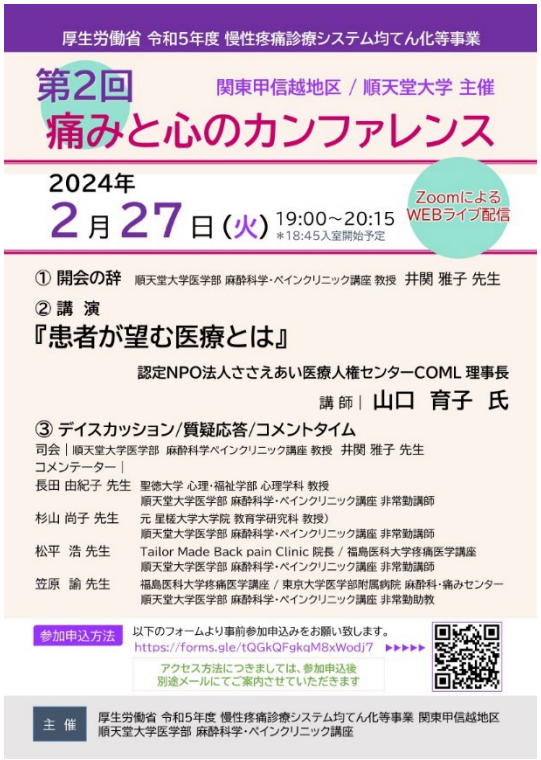
第2回 痛みと心のカンファレンス　2024年 2月 27日（火）開催　※参加者数 45名

慢性疼痛診療においては、患者の話しを傾聴すること、患者の立場にたって考えることが重要である。患者と医療者を繋ぐ活動をされておられるNPO法人CPLM山口育子理事長にご講演いただき、コメンテーターの先生がたから、コメントをいただき質疑応答を施行した。現代の問題点として、医療者がインフォームドコンセントのために多くの情報を短時間に患者に与えても、何も理解できていない状況が発生していること、さらに本邦においては患者は受け身で消極的であることが多いそのためシェアード・ディシジョン・メイキングが普及していかないことがあげられた。講演を通じて、医療者は重要点を絞り患者に説明をすること、回数をわけて診察や面談をすること、さらに意識して患者や家族の考えを積極的に問うように心がける必要性を参加者全員で共有することができた。

総合司会｜順天堂大学医学部麻酔科学ペインクリニック講座　井関雅子

『患者が望む医療とは』
講 師｜山口 育子 氏
認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長

【 コメンテーター 】
・長田 由紀子 先生　聖徳大学 心理・福祉学部 心理学科 教授
・杉山 尚子 先生　元 星槎大学大学院 教育学研究科 教授
・松平　浩 先生　Tailor Made Back pain Clinic 院長 / 福島医科大学疼痛医学講座
・笠原　諭 先生　福島医科大学疼痛医学講座 / 東京大学医学部附属病院 麻酔科・痛みセンター



4）医科歯科領域の連携と相互理解の推進

第3回 痛みと心のカンファレンス　2024年 3月 12日（火）開催　※参加者数 51名

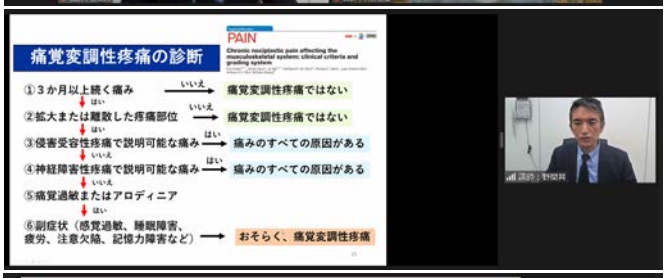
患者にとっては口腔顔面痛は歯科でも医科でも診療可能な領域と認識されている。そのため、医科歯科連携は重要であり、それぞれの知識を共有しアップデートしていく必要がある。その上で診療連携を推進擦る必要がある。本カンファレンスでは医師、歯科医、多職種が歯科領域の慢性疼痛の最新の知識を得て、連携を推進するために開催した。

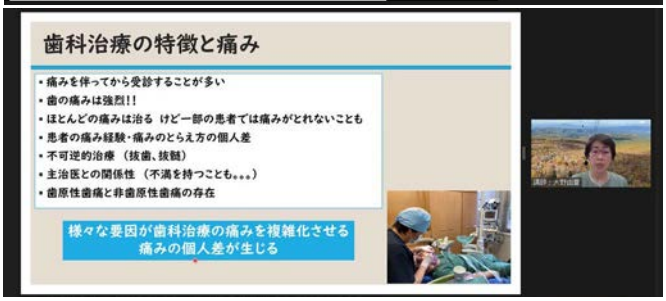
総合司会｜順天堂大学医学部麻酔科学ペインクリニック講座　井関雅子

講演1『国際口腔顔面痛分類（ICOP）に基づいた口腔顔面痛の診査・診断』
　　講師｜野間　昇　先生（日本大学歯学部 口腔内科学講座 主任教授）

講演2『歯科・口腔外科治療の痛み強度と痛み遷延化の個人差』
　　講師｜大野 由夏 先生（明海大学歯学部 病態診断治療学講座 歯科麻酔学分野 准教授）

【 コメンテーター 】
・今村 佳樹 先生（日本大学歯学部特任教授）





5）慢性疼痛診療に必要な専門性の高い分野に関する知識の普及

院内カンファレンスでは、 リハビリテーションカンファレンス ・ ペインクリニック－脊髄脊椎センター合同カンファレンス ・ 骨転移カンファレンスなどを通じて、慢性疼痛診療に必要な専門性の高い分野に関する知識の普及を図っている。さらに、がんサバイバーの増加から、当科では、がん治療に伴う痛み（術後痛・化学療法など）や、がん治療による身体的変化から発生する痛みなどを有する患者の治療を行うことが多く、がんサバイバーが抱える痛みに対応できる人材を育成している。

当科で作成した『術後痛ハンドブック－術後痛はこんな病気』を患者や医療者への啓発として使用予定である。

さらに、がんサバイバーに関する知識を、広く医療者へ普及させていく活動を次年度は予定している。

慶應義塾大学医学部附属病院

代表者 :小杉　志都子

慶應義塾大学医学部 麻酔学教室

院内協力者

慶應義塾大学医学部 麻酔学教室
篠原　佑太
若泉　謙太
星野　麗子
高岡　早紀
河手　森彦

慶應義塾大学医学部 整形外科学教室
辻　収彦

慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室
眞島　裕樹

慶應義塾大学医学部 リハビリテーション医学教室
石川　愛子
川上　途行

慶應義塾大学医学部歯科口腔外科
臼田　頌

本施設におけるモデル事業の目標

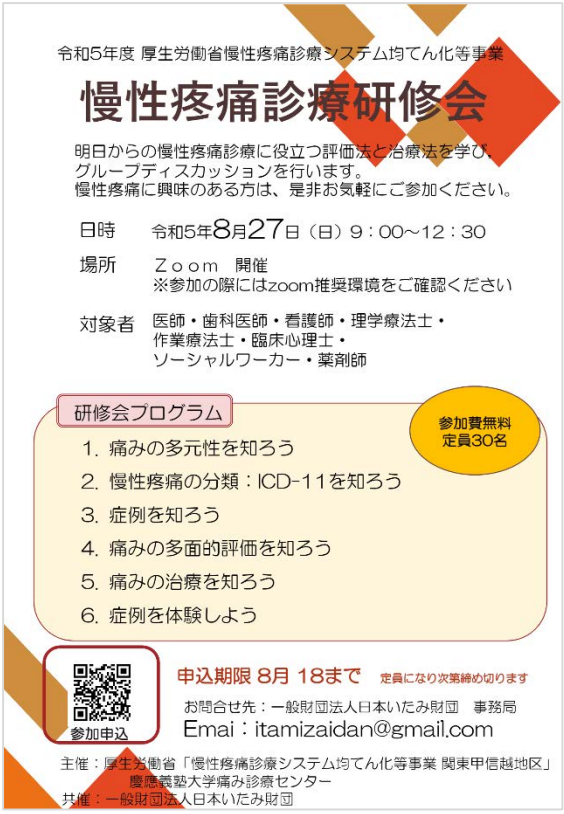
本施設は、約35の関連教育中核病院を所有する大学病院の特性を利用し、慢性疼痛診療構築モデル事業を通じて、慢性疼痛診療に精通する医療人の教育・排出を目標としました。また、新宿区・中野区・杉並区を中心とした地域の基幹病院としての役割を生かし、連携医療機関に慢性疼痛診療の情報を発信し、医療紹介連携を深めることも目標としました。本年度も、歯科口腔外科との連携を深めるとともに、心理療法の内容を含めた頭痛・口腔顔面痛の診断・治療に関連する教育にも取り組みました。

モデル事業の内容の実際

1. 慶應義塾大学 慢性疼痛診療研修会

開催日　令和5年 8月 27日（日）9時～12時30分
場所　Zoom開催
参加者　12名

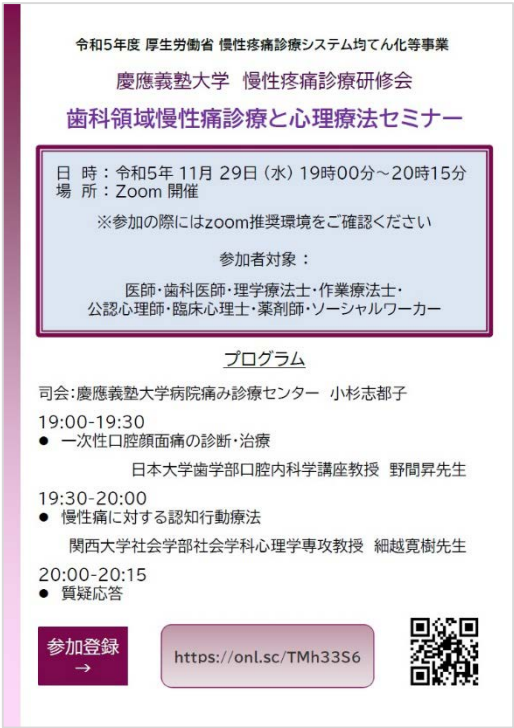
慶應関連病院および近隣医療機関の医師・歯科医師・臨床心理士・理学療法士・看護師を対象とした慢性痛診療（痛みの多元性・ICD-11・症例を知ろう・痛みの多面的評価・運動療法・薬物療法・症例検討）に関する研修会を開催しました。Zoomのブレークアウトルームを利用してグループディスカッションを行い、各グループの意見を共有しました。



2. 慶應義塾大学 慢性疼痛診療研修会
「歯科領域慢性痛診療と心理療法セミナー」

開催日　令和5年 11月 29日（水）19時～20時15分
場　所　Zoom開催
参加者　76名

慶應関連病院および近隣医療機関の医師・歯科医師・歯科衛生士・臨床心理士・理学療法士・看護師を対象とし、「歯科領域慢性痛診療と心理療法セミナー」と題して歯科口腔外科、心理士の先生に、頭痛・口腔顔面痛の診療の最新の情報、および心理的アプローチを発信していただきました。日本大学歯学部口腔内科学講座の野間昇先生には、「一次性口腔顔面痛の診断・治療」についてお話いただきました。関西大学社会学部社会学科の細越寛樹先生には、慢性痛に対する認知行動療法についてお話いただきました。講義の最後に、座長である慶應義塾大学医学部麻酔学教室　小杉志都子　を交えて、座談会形式で実りのあるディスカッションを行うことができました。


令和5年度 厚生労働省 慢性疼痛診療システム均てん化等事業

慶應義塾大学　慢性疼痛診療研修会

歯科領域慢性痛診療と心理療法セミナー

日 時：令和5年 11月 29日（水）19時00分～20時15分
場 所：Zoom 開催

※参加の際にはzoom推奨環境をご確認ください

参加者対象：

医師・歯科医師・理学療法士・作業療法士・
公認心理師・臨床心理士・薬剤師・ソーシャルワーカー

プログラム

司会：慶應義塾大学病院痛み診療センター　小杉志都子

19:00-19:30
● 一次性口腔顔面痛の診断・治療
日本大学歯学部口腔内科学講座教授　野間昇先生

19:30-20:00
● 慢性痛に対する認知行動療法
関西大学社会学部社会学科心理学専攻教授　細越寛樹先生

20:00-20:15
● 質疑応答

参加登録 →

https://onl.sc/TMh33S6

3. 運動療法のハンドブック作成

慶應義塾大学病院痛み診療センターにおける集学的治療における運動療法の患者教育用のハンドブックを作成しました。本ハンドブックは、専門医の監修のもと作成され、集学的治療の知識を深めるための患者教育用　教材として使用しました。

得られた成果や感想

本年度は歯科口腔外科と心療内科との連携を図る目的で、頭痛・口腔顔面痛に関する研修を行いました。口腔顔面痛は、医科の医療従事者にとって難解な痛みであり、診療に苦慮することが多いのが現状です。特に、一次性口腔顔面痛は難治性疼痛の一つであり、多角的な評価を要します。一方で、器質的な疾患が混在することも多く、歯科口腔外科医による専門的な評価により痛みの原因を見極めることは、治療法を決定するために非常に重要と考えます。今回は歯科治療後の神経障害性疼痛やバーニングマウス症候群などを中心に病態・治療についてお話いただきました。昨年同様、人気の研修会であり、参加者も非常に多く、この領域に対する関心の高さを伺えました。心理的アプローチとして認知行動療法は集学的痛み治療の主軸となります。今回は、実際の認知行動療法のコツをご提示いただきながら、患者・治療者が協同的なスタンスで取り組むことの重要性をお話いただきました。各領域のエキスパートの先生方の実臨床での経験を踏まえ、実りあるディスカッションを行うことができたと思っています。

その他（自由記載）

頭痛・口腔外科研修会でご講演いただきました日本大学歯学部口腔内科学講座 野間 昇 先生、関西大学社会学部社会学科 細越 寛樹 先生、本事業の代表者である順天堂大学 井関 雅子 先生、いたみ財団 内藤 理恵 さん のご協力を賜り、滞りなく本学での慢性疼痛診療研修会を遂行できたことを感謝いたします。

千葉大学医学部附属病院

大学名：千葉大学
所　　属：千葉大学医学部附属病院 痛みセンター

院内協力者

医師名	役職・職位	専門分野
大鳥　精司	センター長、教授（整形外科）	腰椎
清水　栄司	副センター長、教授（認知行動療法センター）	認知行動生理学、認知行動療法
田口　奈津子	副センター長、診療教授（緩和ケアセンター）	緩和医療学、疼痛治療学
横手　幸太郎	教授（糖尿病・代謝・内分泌内科）	糖尿病、脂質異常症、動脈硬化症、高齢者の病気、早老症
村田　淳	診療教授（リハビリテーション科）	リハビリテーション医学全般、電気生理診断学
長谷川　直	特任講師（精神神経科）	一般精神医療、リエゾンコンサルテーション精神医学、精神腫瘍学
椿　佳那子	医員（精神神経科）	一般精神科医療、認知行動療法
三澤　園子	准教授（脳神経内科）	神経疾患全般、臨床神経生理、末梢神経疾患、ボツリヌス治療、POEMS症候群
水地　智基	特任助教（脳神経内科）	神経疾患全般、末梢神経疾患、臨床神経生理
水野　裕子	助教（麻酔・疼痛・緩和医療科）	臨床麻酔、疼痛治療学
稲毛　一秀	副センター長、助教（整形外科）	整形外科、脊椎脊髄病、骨粗鬆症、サルコペニア、側弯症
大橋　範之	シニアレジデント（和漢診療科）	和漢診療学
高井　啓有	助教（麻酔・疼痛・緩和医療科）	臨床麻酔・疼痛治療学
竹生　浩人	医員（麻酔・疼痛・緩和医療科）	臨床麻酔・疼痛治療学
須藤　知子	薬剤師	薬剤部
市原　章子	医療ソーシャルワーカー	患者支援部
小野　有花	看護師	患者支援部
石井　雅也	就労支援担当	患者支援部
清水　啓介	特任助教（千葉大学未来医療教育研究機構）	認知行動療法
森田　光生	リハビリテーション部 副部長・療法士長	リハビリテーション

連携病院名

JCHO船橋中央病院・西川整形外科・タムス浦安病院・富士整形外科病院・聖隷佐倉市民病院
北千葉整形外科幕張クリニック・北千葉整形外科美浜クリニック・北千葉整形外科稲毛クリニック
山王病院・きぼーるクリニック・さんむ医療センター・国府台病院整形外科

1. これまでの活動内容

2019年7月1日に 千葉大学医学部附属病院 痛みセンター を開設いたしました。現在は整形外科医1名、麻酔科医1名にて初診および再診の対応を行っています。また、既存の診療部門である整形外科、糖尿病・代謝・内分泌内科、麻酔・疼痛・緩和医療科（ペインクリニック）、精神神経科、脳神経内科、リハビリテーション科、総合診療科、和漢診療科、緩和ケアセンター、認知行動療法センターなど複数の部門との強固な連携も行っています。特に、これらの診療科の医師、看護師、公認心理師（臨床心理士）、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカー、薬剤師など、異なる専門スタッフが、相互に連携（院内紹介や 毎週実施する多科多職種による症例カンファレンス、1カ月に1回の合同カンファレンスなど）し、個々の患者さんの痛みの原因究明とそれに対する適切な治療（集学的治療）を行っています。

2.本年の千葉県におけるモデル事業の目標

千葉大学医学部附属病院痛みセンターを中心とし、地域の難治性疼痛に関する連携体制強化を目標として活動しています。

3.モデル事業の内容の実際

千葉県の医療施設に勤務する医師、コメディカルを対象に慢性疼痛診療研修会（厚生労働省慢性疼痛診療システム均てん化等事業）を実施（図1）しています。

また、千葉県下の多施設多職種からメンバーを募り、千葉total pain management（TPM）WGを組織しています（総勢62名）。本WGでは参加メンバーの痛み診療レベル向上のため、定期的にwebセミナーを開催しています。加えて、運動療法を中心とした慢性疼痛治療アプリ（メインは患者用リハビリ動画）を開発中です。

更に、千葉大学医学部附属病院痛みセンターと協力施設（医療法人社団城東桐和会タムス浦安病院）が連携し、難治性疼痛患者に対する入院リハビリテーション依頼および連携施設の痛み診療レルアップのためのコメディカルに対する痛み診療に関する研修会実施も行っています。

図1 令和5年度 慢性疼痛診療研修会

4. 研究業績（英語原著）

1. Eguchi Y, Aoki Y, Yamashita M, Fujimoto K, Sato T, Abe K, Sato M, Yamanaka H, Toyoguchi T, Shimizu K, Orita S, Inage K, Shiga Y, Ohtori S. "Clinical Efficacy of Neurotropin for Lumbar Spinal Stenosis with Low Back Pain." Pain Ther. 2023 Apr;12(2):461-473.

2. Inoue M, Orita S, Inage K, Suzuki-Narita M, Shiga Y, Kinoshita H, Norimoto M, Umimura T, Eguchi Y, Akazawa T, Aoki Y, Shiko Y, Suzuki M, Kawasaki Y, Ohtori S. "Objective Assessment of Sleep Disorders in Patients with Lumbar Spinal Stenosis Using Wearable Trackers." Spine Surg Relat Res. 2023 Sep 4;7(6):533-539.

3. Maki S, Furuya T, Inoue T, Yunde A, Miura M, Shiratani Y, Nagashima Y, Maruyama J, Shiga Y, Inage K, Eguchi Y, Orita S, Ohtori S. "Machine Learning Web Application for Predicting Functional Outcomes in Patients With Traumatic Spinal Cord Injury Following Inpatient Rehabilitation." J Neurotrauma. 2023 Nov 28.

4. Mizutani M, Eguchi Y, Toyoguchi T, Orita S, Inage K, Shiga Y, Maki S, Nakamura J, Hagiwara S, Aoki Y, Inoue M, Koda M, Takahashi H, Akazawa T, Ohtori S. "Association between Osteoporosis and Skeletal Muscle Mass in Men." Asian Spine J. 2024 Jan 30.

5. Suzuki N, Kotani T, Sunami T, Sakashita K, Okuwaki S, Ohyama S, Iwata S, Iijima Y, Sakuma T, Akazawa T, Inage K, Shiga Y, Minami S, Ohtori S. "Anatomical Analysis of the S1 Neural Foramen Using Three-Dimensional Computed Tomography Imaging: Insights for Effective S1 Nerve Root Block." World Neurosurg. 2024 Jan;181:e459-e467.

5. その他

当痛みセンターの最重要課題として以下の 2 点を実施していきます。

① 薬剤適正使用の推進

関連施設と連携し千葉県における疼痛関連薬剤の適正使用を推進して行きます。特に強オピオイドのむやみな使用を撲滅したいと考えております。現在、多科多職種の協力を得ながら強オピオイド離脱プログラムを作成し臨床研究を実施中です。

② 当痛みセンターオリジナルの難治性疼痛改善プログラム

以下の 3本柱 についての統一プロトコール（スマホアプリ）を作成し臨床研究を実施中です。

1. 運動療法
2. 認知行動療法
3. 栄養指導

獨協医科大学病院

研究分担者

獨協医科大学医学部麻酔科学講座　教授　山口 重樹

研究協力者

獨協医科大学医学部麻酔科学講座　准教授　木村 嘉之
獨協医科大学日光医療センター麻酔科　診療科長　藤井 宏一

院内協力者

獨協医科大学病院総合がん医療センター緩和ケア部門 部門長　白川 賢宗
獨協医科大学医学部 麻酔科学講座　講師　寺島 哲二
獨協医科大学医学部 麻酔科学講座　助教　山中 恵里子
東北福祉大学 福祉心理学科　准教授　武村 尊生
上智大学 総合人間科学部 心理学科　増田 紗弓

1）成果概要

本事業の目的である慢性疼痛診療均てん化のために慢性疼痛医療者研修会と医療者育成講演会を行った。

研修会について

本事業では，慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業でも使用した日本いたみ財団作成の共通スライドを使用し各ブロックで同一プログラムの研修会を行っているが，これまでの参加者の意見としてディスカッションの時間を増やしてほしいという要望が多かった。これは本事業のもう一つの目的である地域連携の強化にもつながるため共通プログラムの講義内容を一部割愛し質疑応答と症例検討会をプログラムに組み込んだ。これにより受講者間での会話が多くなり情報共有や研修会後の医療者連携の強化に結び付けることができた。

本年度は3回の研修会を開催し第1回，第2回は昨年同様のweb研修会を行ったが，昨年までと比較し参加者は減少傾向にあった。研修会参加を呼び掛ける通知は行っているがすでに研修会を受講している人が繰り返し受講する例は多くない。限られたスタッフで案内を通知できる対象は限られており，この点において市や県などの協力が必要であると感じた。

また本年度の新しい試みとして，第3回研修会では参加者を一つの市内に限定するという非常に狭い範囲を対象とした研修会を行った。この会では，基幹病院，開業医，訪問看護ステーション，在宅介護支援センター，老人保健施設などから看護師や介護士，作業療法士，生活支援コーディネーターなどが参加しディスカッションするによって地域に密着した今後の診療連携につながる交流を図ることができた。この回はwebではなく参加者が集合しての対面式の研修会であったことも情報交換が円滑化につながったかもしれない。

講演会について

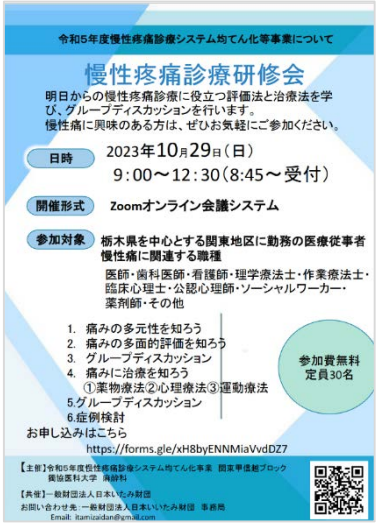
国内で開催された学会参加のために来日していた，元世界疼痛学会理事長のLars Arendt-Nielsen先生をお招きし，近年の問題でもあるCOVID-19に関連した痛みなどについての講演会を開催した。講演会場とwebを利用したハイブリッドで行ったがweb参加の聴講者の方が多かった。またwebには遠方に在住の聴講者もおりインターネットの利便性を再確認した。

2）慢性疼痛医療者研修会

第1回　2023年 10月 29日（日）WEB研修会

1:痛みの多元性とその基礎を知ろう　獨協医科大学　白川 賢宗
2:慢性疼痛の多面的評価を知ろう　東北福祉大学　武村 尊生
3:質疑応答・討論
4:薬物療法を知ろう　獨協医科大学　藤井 宏一
5:心理療法を知ろう　上智大学　増田 紗弓
6:運動療法を知ろう　星総合病院　二瓶 健司
7:質疑応答・討論
8:症例ワークショップ　獨協医科大学　木村 嘉之

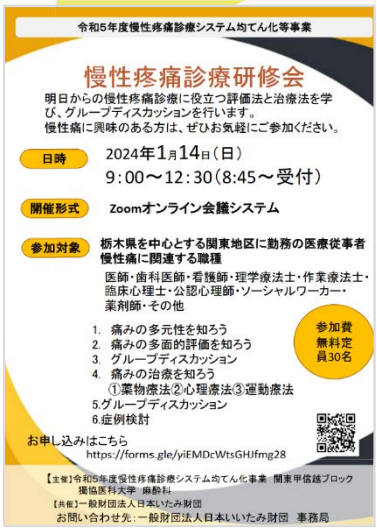
参加者:16名



第2回　2024年 1月 14日（日）WEB研修会

1:痛みの多元性とその基礎を知ろう　獨協医科大学　白川 賢宗
2:慢性疼痛の多面的評価を知ろう　東北福祉大学　武村 尊生
3:質疑応答・討論
4:薬物療法を知ろう　獨協医科大学　藤井 宏一
5:心理療法を知ろう　上智大学　増田 紗弓
6:運動療法を知ろう　星総合病院　二瓶 健司
7:質疑応答・討論
8:症例ワークショップ　獨協医科大学　木村 嘉之

参加者:17名



第3回　2024年 2月 25日（日）対面式研修会

1:痛みの多元性とその基礎を知ろう　獨協医科大学　山中 恵里子
2:慢性疼痛の多面的評価を知ろう　東北福祉大学　武村 尊生
3:質疑応答・討論
4:薬物療法を知ろう　獨協医科大学　藤井 宏一
5:心理療法を知ろう　上智大学　増田 紗弓
6:運動療法を知ろう　星総合病院　二瓶 健司
7:質疑応答・討論
8:症例ワークショップ　獨協医科大学　木村 嘉之

参加者:17名

3）人材養成研修講演会

2023年 12月 13日（水）ハイブリッド開催

デンマーク　オールボー大学 Lars Arendt-Nielsen 教授

Musculoskeletal pain including long COVID pain?
邦題：運動器疼痛，そして，新型コロナウイルス感染症の後遺症としての痛み

新潟大学医歯学総合病院

新潟大学医歯学総合病院 リハビリテーション科
木村　慎二
（新潟県慢性疼痛診療システム均てん化等事業ワーキンググループ長）

長岡中央綜合病院 リハビリテーション科
田村　友典
（痛み診療コーディネーター）

1）成果概要

本事業では、新潟大学医歯学総合病院リハビリテーション科と麻酔科・ペインクリニック、歯科麻酔科を中心に複数の連携機関と協同して、新潟県の慢性疼痛診療システム均てん化等を推進してきた。新潟県全域から、医師9名、歯科医師2名、看護師1名、理学療法士5名、臨床心理士1名の計18名（昨年度24名）からなるワーキンググループを構成した（表1）。

活動内容として、キックオフミーティング、こころと痛みのカンファレンス、歯科口腔領域の慢性疼痛人材育成研修会、慢性疼痛診療研修会を行った。参加者の利便性や時間節約を兼ねて、すべてオンラインで開催した。講義やグループワークを通じて、集学的な慢性疼痛診療の実際について、多職種連携および教育を行った。

表1　新潟地区慢性疼痛診療ワーキンググループメンバー

氏　名	所　属	役　割
木村　慎二	新潟大学医歯学総合病院 リハビリテーション科	WG長
内山　徹	内山整形外科医院	副WG長
渡部　達範	新潟大学医歯学総合病院 麻酔科	副WG長
福井　直樹	新潟大学医学部医学教育センター	委　員
傳田　定平	新潟市民病院 ペインクリニック科	委　員
井村　健二	長岡赤十字病院 リハビリテーション科	委　員
松橋　麻里	県立中央病院 麻酔科	委　員
庄司　寛和	新潟市民病院 整形外科	委　員
田中　裕	新潟大学医歯学総合病院 歯科麻酔科	委　員
松井　宏	新潟労災病院 歯科口腔外科	委　員
神田　賢	新潟医療福祉大学 義肢装具自立支援学科	委　員
岩崎　円	新潟大学医歯学総合病院 診療支援部 リハビリテーション部門	委　員
花輪　千早	新潟大学医歯学総合病院 看護部 西7階病棟	委　員
筒井　奈佳子	新潟リハビリテーション病院 臨床心理室	委　員
北村　拓也	新潟リハビリテーション大学 医療学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻	委　員
草部　雄太	厚生連長岡中央綜合病院	委　員
大鶴　直史	新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科	いたみ診療 コーディネーター
田村　友典	厚生連長岡中央総合病院 リハビリテーション科	いたみ診療 コーディネーター

2）事業実施成果

○ 新潟地区ワーキンググループキックオフミーティング（図1）

・日　時：2023年 5月 30日（火）
・開催方法：Web（Zoom）
・参加人数：13人
・内　容：
本事業の概要説明、4名の新委員の紹介、年間活動スケジュール、慢性疼痛診療研修会等の開催内容について話し合いが行われた。

図1　キックオフミーティング時のワーキンググループの写真

○ こころと痛みのカンファレンス（図2）

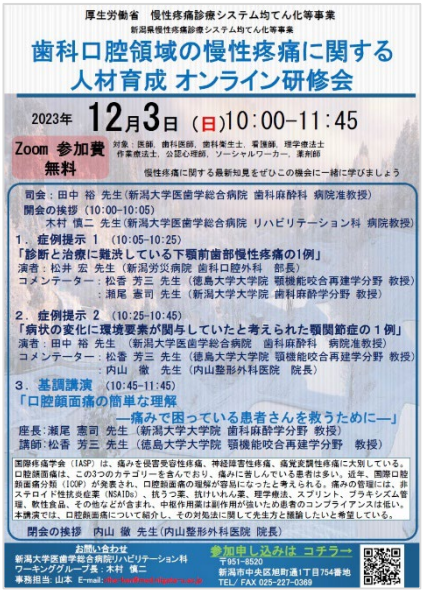
・日　時：2023年 9月 7日（木）
・開催方法：Web(Zoom)
・参加医療機関：13施設
・参加人数：66名（医師23名、看護師3名、理学療法士4名、その他36名）
・内　容：
2例の症例提示や基調講演を通して、慢性疼痛患者における心理・社会的状況、認知・行動特性などの問題に対して、心理社会的評価や心理療法を含めた包括的なアプローチついて、理解を深めることができた。

図2　こころと痛みのカンファレンスの
講師・座長・コメンテーター全員写真

○ 歯科口腔領域の慢性疼痛に関する人材育成オンライン研修会（図3）

・日　時：2023年 12月 3日（日）
・開催方法：Web（Zoom）
・参加人数：27名（医師3名、歯科医師23名、その他1名）
・内　容：
2症例の提示と基調講演を通して、歯科口腔領域の慢性疼痛に特有の問題点や多職種連携の重要性について焦点が当てられ、その病態および診療内容等をお示しできたことで、さらなる医療連携および診療の充実をすすめることができたと考えられる。

図3　人材育成研修会の講師・座長・コメンテーター集合写真



○ 日本痛み財団と共催で行った新潟県慢性疼痛診療研修会

痛みの多元性や多面的評価、さらには各種慢性疼痛の病態についての講義に加え、症例を通してグループワークを行った。各グループにファシリテーターが配置され、慢性疼痛診療における集学的な評価および治療等について、理解が深められた。

新潟県慢性疼痛診療オンライン研修会

・日　時：2024年 2月 4日（日）
・開催方法：Web（Zoom）
・参加医療機関：13施設
・参加人数：28名
　医師12名、歯科医師1名、看護師1名、理学療法士11名、作業療法士1名、公認心理師（臨床心理士）2名

図4　新潟県慢性疼痛診療オンライン研修会の講師・座長・コメンテーター全員写真

図5　新潟県慢性疼痛診療オンライン研修会の参加者全員写真

3）最後に

今年度もzoomシステムを用いたオンラインでの講演会・研修会等を昨年度と同様に新潟大学医歯学総合病院リハビリテーション科を拠点に開催した。本活動を通して、新潟県を中心とした慢性疼痛診療システムの構築、および診療の質の向上を図るとともに、さらなる関東甲信越地方の慢性疼痛診療ネットワークの強化に努めていきたい。

横浜市立大学附属市民総合医療センター
ペインクリニック内科

事務局スタッフ

事業責任者	北原　雅樹	横浜市立大学附属市民総合医療センター ペインクリニック内科　診療教授
事務局・コーディネーター	浅枝　まり子	事務局長　公認心理師
	黒岩　由佳	事務スタッフ
	大河原　貴子	事務スタッフ

医療スタッフ

北原　雅樹　：　医師（ペインクリニック専門医、麻酔科専門医）、公認心理師
　診療部長

小島　圭子　：　医師（ペインクリニック専門医、麻酔科専門医）、公認心理師
　緩和ケア部診療部長

西岡　浩子　：　医師（麻酔科専門医）

冨永　陽介　：　医師（精神科医　麻酔科医）

高野　恵子　：　看護師

赤澤 めぐみ：　看護師

伯母　治　　：　作業療法士

守屋　正道　：　理学療法士

納橋　優奈　：　臨床心理士、公認心理師

浅枝 まり子：　公認心理師

野口　直子　：　鍼灸師

（2024年2月現在）

2023年度の事業報告

地域の慢性痛に関する診療ネットワークの構築や慢性痛の知識普及、患者への啓発は非常に重要である。横浜市立大学市民総合医療センター　ペインクリニック内科では、今年度も地域社会の健康と福祉に貢献する活動を行ってきた。以下に活動を整理する。

1. 地域の慢性痛の診療ネットワークの構築活動（オンラインセミナーなど）
2. 一般社団法人いたみ財団と共同で行った慢性疼痛診療研修会
3. 慢性痛患者および一般国民への慢性痛の自己改善の知識の啓発
   - ・You tube チャンネル「北原先生の痛み塾」
   - ・心と痛みのベイサイドセミナー
4. 厚生労働省HPVワクチン拠点病院整備事業の事業資金を使った医療者講習会
   「子宮頸がんとHPVワクチンの正しい理解のために」シンポジウム
5. 短期の研修生受け入れ、および医療職のカンファレンスなどの見学交流事業

1. 地域の慢性痛の診療ネットワークの構築活動（オンラインセミナーなど）

■ 慢性痛みの地域懇話会　2023年 12月 6日

横浜市立大学附属市民総合医療センター　ペインクリニック内科と整形外科との共催で地域開業医との懇親を目的とした懇話会であり、2017年以来毎年行われている。地元の開業医が症例を提示し、開業医が慢性痛を診療する上での問題点や、開業医としての長所・短所などを発表してもらい、その症例に基づき討論を行って相互に研鑽し、親睦を深めるという趣旨である。今年も昨年に引き続きオンライン上開催となった。毎年行われるこの懇話会は会を重ねるごとに参加者も活発に質疑応答に参加するようになってきている。7年目の今年は、産婦人科領域で散見される骨粗しょう症についてと、転移性骨腫瘍に関する疼痛対応など、身近な症例と難治症例が両方出され、座長の北原医師を交えて活発な討論が行なわれた。適切な情報共有やリファラルシステムを整備し、患者のケアを向上させることは重要な試みと考えている。

◆講演１｜　座長：北原　雅樹 医師
「レディースクリニックの骨粗鬆症について」
追浜駅前ようこレディースクリニック 院長　木下 容子 先生

◆講演2｜　座長：冨銘　保則 先生　琉球大学大学院医学研究科 整形外科学講座
「転移性骨腫瘍に関する診療トピック～疼痛への対応を中心に～」
横浜市立大学附属病院 整形外科 教授　稲葉　裕 先生

2. 一般社団法人いたみ財団と共同で行った慢性疼痛診療研修会

2024年1月28日、一般社団法人いたみ財団のプログラムによる慢性疼痛診療研修会を開催した。症例提示をもとに行われ、ファシリテーターを6人つけて小グループに分けて行われる研修会も今年で4年目になる。

表1　研修会時程

時刻	スタイル	内容
9:45:～10:00	全体	参加者がZoomにインし、通信状態の確認等を行う。
10:00～10:10	全体	講師（北原）挨拶。操作説明（内藤）
10:10～10:20	グループ	アイスブレイク
10:20～10:30	全体	オンデマンド講義に対する質疑応答
10:30～10:40	全体	症例提示
10:40～10:50	グループ	ディスカッション1タイム
10:50～11:00	全体	ディスカッション1の総合討論
11:00～11:05	全体	追加提示
11:05～11:15	グループ	ディスカッション2タイム
11:15～11:25		休憩
11:25～11:35	全体	ディスカッション2の総合討論
11:35～11:40	全体	問題点の提示
11:40～11:45	グループ	ディスカッション3タイム
11:45～11:50	全体	ディスカッション3の総合討論
11:50～11:55	全体	治療方針案の提示
11:55～12:00	全体	全体討論、まとめ

難易度の高い症例に対して活発な議論が行われる参加者中心のワークショップ形式の講習会は人気が高い。毎年続けていきたいと考えている。

提示症例：78 歳女性

現病歴：

それまでは日常生活に全く不自由はなかった。家事はすべて自分でやっており、片道約1kmのスーパーまで2日に1回は買い物に行っていた。老人会の華道教室の講師として週1回は教えていた。26か月前：急に腰部に激痛。L3圧迫骨折のDx、安静を中心に1か月入院。激痛は治まったが、退院後、家事をようやくこなす程度。買い物には行けなくなり、食事の材料などは娘が買ってくる。複数の医療機関での各種神経ブロックは効果が無かった。手術適応はないといわれた。

嗜好品：喫煙歴なし。酒は50代までは週2回位。

家族構成：

エレベータ付きマンションの5階の部屋で独居（4年前に5歳年上の配偶者と死別）。子供は長男と長女。長女（50歳）夫婦が自転車で10分のところに居住。長男（48歳）は遠方に居住。年金+貯金などで、贅沢はできないが当面のお金には困らない。

既往歴：高血圧

常用薬：血圧に対して：ARB・利尿薬配合剤

睡眠導入剤　：ブロマゼパム 2mg+エチゾラム 0.5mg（週 1～2 回）
鎮痛薬　　：ロキソプロフェン 3T/3x, レバミピド 3T/3x, トラマドール/アセトアミノフェン配合剤 3T/3x, プレガバリン 75mg 4T/2x

現　症：151cm、BW 50.5⇒44.5（最近6か月間で）

腰背部全体～両臀部にかけて強い痛みがある。足腰に力が入りにくく、ふらつくことが多くなった。
痛みではなく何となく寝つきが悪いが睡眠薬で眠れる。週に2～3回夜トイレなどで目が覚めると痛い。

神経学的所見：

DTR knee 2+/2+, ankle 1+/1+. Babinski -/-. 下肢筋力低下（MMT Quad 3+/3+, TA 4/4, EHL 4/4, Hum 3+/3+, Glu 4/4）異常反射はない。両ひざ下にストッキング型に末梢に行くほど強い感覚低下あり。ROM 股関節の外旋外転が両側性に軽度制限。

検査所見：

WBC 6,700/μl、RBC 320 万/μl、Hb 11.1g/dl、Plt 18.6 万/μl、TP 6.2g/dl、Alb 3.5g/dl、CPK 92U/L、GOT 36U/L、GPT 48U/L、γGTP 76U/L、ALP 238U/L、Cre 1.1 mg/dl、eGFR 37.2 mL/min/1.73m2、UA 3.9mg/dl、TG 120 mg/dl、Tcho 220mg/dl、Na148meq/L、K 4.1meq/L、Cl 110 meq/L、Ca 8.3mg/dl、CRP 0.46mg/d

3. 慢性痛患者および一般国民への慢性痛の自己改善の知識の啓発

Ⅰ. YouTubeチャンネル「北原先生の痛み塾」

YouTube「北原先生の痛み塾」2023 年度 Analytics Report

① 年度内公開コンテンツ一覧（2024 年2月15日現在）

公開日	タ　イ　ト　ル	視聴回数	視聴時間	コメント
23/04/12	第113回 IMS⑦	868	98.2	2
23/04/26	第114回 関節の「音が鳴る」とは	1,296	72.8	3
23/05/10	第115回 足底腱（筋）膜炎	999	601.0	0
23/05/24	特別編_日本における慢性痛対策の必要性	2,551	285.8	4
23/06/08	特別編_慢性痛対策基本法の制定を求める署名のお願い	1,755	85.1	4
23/06/14	第116回 基本的な心理社会的評価・介入①	928	77.6	0
23/06/28	第117回 基本的な心理社会的評価・介入②	474	27.5	0
23/07/12	第118回 基本的な心理社会的評価・介入③	475	37.5	0
23/07/26	第119回 基本的な心理社会的評価・介入④	478	40.9	1
23/08/09	第120回 コメント回答⑦	790	63.8	5
23/08/23	第121回 コメント回答⑧	716	48.6	2
23/09/13	第122回 コメント回答⑨	905	102.4	3
23/09/27	第123回 コメント回答⑩	559	48.6	0
23/10/11	第124回 CRPS①	677	40.3	1
23/10/25	第125回 CRPS②	546	30.9	0
23/11/08	第126回 線維筋痛症 再掲	1,524	157.9	3
23/11/22	第127回 MPC①	440	34.4	1
23/12/13	第128回 MPC②	323	28.4	0
23/12/27	第129回 MPC③	318	16.7	1
24/01/10	第130回 コメント回答⑪	409	39.6	0
24/01/24	第131回 コメント回答⑫	414	41.3	1
24/02/14	第132回 副作用からみた慢性痛関係の薬剤①	361	43.4	0
24/02/28	第133回 副作用からみた慢性痛関係の薬剤②			
24/03/13	第134回 副作用からみた慢性痛関係の薬剤③			
24/03/27	第135回 副作用からみた慢性痛関係の薬剤④			
年度計		17,806	2,022.7	31

② 月間推移

期　間	公開ビデオ数	コメント件数	視聴回数	視聴延べ時間
2023年4月	2	11	23,765	2,075
2023年5月	2	12	26,277	2,254
2023年6月	3	12	24,531	1,975
2023年7月	2	10	21,353	1,677
2023年8月	2	9	24,438	1,988
2023年9月	2	8	22,761	1,761
2023年10月	2	6	22,159	1,694
2023年11月	2	9	20,493	1,642
2023年12月	2	9	15,810	1,231
2024年1月	2	7	15,477	1,222
2024年2月	2（予定）	*2	*6,323	*534
2024年3月	2（予定）			
2023年度計	25（予定含）	*95	*223,387	*18,053

＊印は 2024年2月15日現在 の中間集計値

③ 年度内利用者の概要

	～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65歳～	計
女 性	1.7%	4.6%	14.7%	17.1%	16.6%	54.6%
男 性	2.3%	5.9%	8.7%	10.6%	17.8%	45.3%
計	4.1%	10.6%	23.3%	27.7%	34.3%	

④ コメント分析 ※レポート作成者が主観的に判断した結果なので、厳密な分析ではない。

内 容: 質問的なもの 25% 感想的なもの 52% 意見的なもの 23%

投稿者: 症状を訴えており、明らかに患者と思われるもの 63%
医療者側の立場から発言しているもの 5 %

慢性痛は多くの人に影響を与える重要な問題であるが、十分に理解されていない。

この動画シリーズでは、慢性痛の原因や治療法、予防法などについて専門的な知識を提供している。2024年2月29日現在 チャンネル登録者数8,430人、総視聴回数16,312回、慢性痛を扱ったチャンネルの中では一番の人気チャンネルとなっている。

Ⅱ.心と痛みのベイサイドセミナー（医療者講習会）

概要

2024年1月4日、19時より「心と痛みのベイサイドセミナー」という医療者向けの講習会を開催した。今年で6年目になるこの講習会では、慢性痛の患者に対する全人的なケアの重要性や方法について学んだ。

講習会はズームオンライン会議でテレビ番組のようにリアルタイム配信され、参加者は約130名だった。

参加者からは高い評価を得ており、アーカイブ配信も行なっている。

講師 ： 川野 泰周 先生 について

講師は川野泰周先生で、精神科医と同時に心理学者であり、マインドフルネス瞑想の専門家である。 川野先生はマインドフルネス瞑想の実践も講習会の時間で行った。

**

マインドフルネス瞑想とは、今この瞬間に注意を向け続ける実践技法で、ストレスや不安の軽減、睡眠の質の向上、血圧の低下などの効果が期待できるとされている。

**

4. 厚生労働省HPVワクチン拠点病院整備事業の事業資金を使った医療者講習会「子宮頸がんとHPVワクチンの正しい理解のために」シンポジウム

今年度厚労省よりHPVワクチン拠点病院整備事業の受託資金をいただいた。
HPVワクチン接種後の副反応はほとんどの場合遷延する慢性痛の処置が必要なため、HPVワクチン拠点病院整備事業と慢性痛の受託事業をダブルタイトルで行った。下記に事業内容を報告する。

啓発用動画の作成

俳優の古村比呂さん（子宮頸がんに罹患、再々再発で闘病中）と大学生2名による座談会を実施し、その様子を撮影・編集。

講習会の事前広報

神奈川県と千葉県の疾病対策部門、県教委などを通じて周知。東京、埼玉、群馬、茨城、長野、新潟の医師会にも情報提供。

オンライン講習会開催

Zoomウェビナーで実施。横浜市内の会場に登壇者が集まり、リアルタイムで配信を実施。

オンデマンド配信

YouTubeチャンネルを作成し、オンライン講習会のアーカイブと啓発用動画をアップ。

講習会の事後広報

オンデマンド配信の視聴促進のため、事前広報先や教育系メディアの協力を得ながら進めている。

2024年2月29日現在、you tube　のチャンネルは5217回視聴されて、慢性痛とHPVワクチンについての普及啓発事業として大きな貢献をしていると自負している。

5. 短期の研修生の受け入れ及び医療職のカンファレンスなどの見学交流事業

当科では慢性痛の患者に対して、診断や治療の方法を広めるとともに、地域の医療機関との連携を強化するために、医師の見学プログラムを実施している。金曜日には心理的な問題を抱える重症患者について、当科の専門家が集まってカンファレンスを開催しており、これは見学者から高い評価を得ている。今年度は鍼灸師2名、他県の医学生1名、院内の医師5名が見学に来た。

当科は、厚生労働省から「慢性痛の均等化事業」と「HPVワクチン拠点病院整備事業」の補助金を受けて、今年度も活動を行った。

これらの事業は、慢性痛患者の診療体制の充実やHPVワクチンの普及促進により、地域医療の質の向上に大きく寄与したと考えている。

厚生労働省には深く感謝している。

東京慈恵会医科大学附属病院

代表者：倉田　二郎　　東京慈恵会医科大学麻酔科学講座

東京慈恵会医科大学附属病院ペインクリニック（痛みセンター）
院内協力者

倉田　二郎	医師
八反丸　善康	医師
濱口　孝幸	医師
中村　端道	医師
大岩　彩乃	医師（非常勤）
渡辺　雅之	医師（非常勤）
荻野　有希	理学療法士（非常勤）
筒居　直美	理学療法士（非常勤）
大久保　泉美	理学療法士（非常勤）
平子　雪乃	臨床心理士（非常勤）
増田　紗弓	臨床心理士（非常勤）

1. 本施設におけるモデル事業の概要

当院では、理学療法士と臨床心理士が慢性痛患者の診察、治療に関わり、特にペインクリニックを重点的に担当する看護師とともに、多職種での慢性痛診療体制を築いてきました。複数の心理物理指標を初診時から3か月毎に記録し、感覚的な痛みだけで無く、患者の情動・認知の働きや、身体全体の運動週間、生活習慣などに留意しながら、全人的な痛み治療を目標としてきました。令和2年10月1日から「集学的痛みセンター」として認定され、本モデル事業でも年に1-2回の慢性疼痛研修会、講演会を開催してきました。

開業医を含む幾つかの関連施設と連携し、相互に患者を紹介しながら、港区を中心とする地域の慢性痛診療を徐々に充実させています。

2. モデル事業内容の実際

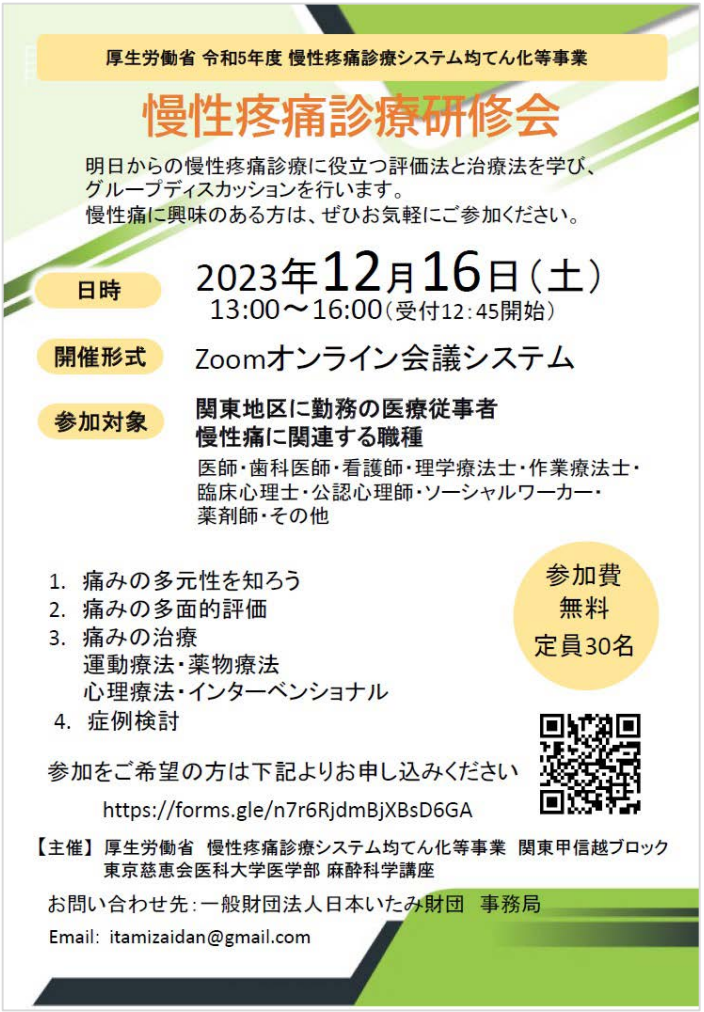
本年度は、令和5年12月16日に下記のようなプログラムで慢性疼痛研修会を開催しました。ウェブのみの開催ですが、17名の参加者にご参加いただきました。いたみ財団の皆様にもこの場を借りて感謝申し上げます。

慢性疼痛診療研修会

開催日時：2023年 12月 16日（土）13:00～16:00
開催形式：Zoomオンライン会議システム
参加対象：関東甲信越地区に勤務する医療従事者、慢性痛に関連する職種

プログラム（敬称略）：

1. 痛みの多元性を知ろう
講師｜倉田 二郎
2. 痛みの多面的評価
講師｜大岩 彩乃
3. 運動療法
講師｜筒居 直美
4. 薬物療法
講師｜中村 端道
5. 心理療法
講師｜武村 尊生
6. インターベンショナル治療
講師｜濱口 孝幸
7. 症例検討
講師｜八反丸 善康
質疑応答、アンケート、閉会挨拶
八反丸 善康



善衆会病院

1. 善衆会病院運動器慢性疼痛センター構成

恩田　啓　　（医師/整形外科･リハビリテーション）･･･ 代表者

糸井　由紀　（看護師）

小野里　恵子（看護師・いたみマネージャー）

酒井　晃洋　（公認心理師）

岡田　牧子　（薬剤師）

天笠　陽介　（理学療法士）

関口　昌宏　（理学療法士）

小口　達也　（作業療法士）

木村　由美子（薬剤科）

2. 成果概要

当センターでは，運動器の慢性疼痛を専門とした外来を週2回午後に設置している．主に前橋市周辺地域からの患者紹介を受けている．また，当院は整形外科疾患を中心とした病院形態であるため，院内からの紹介も一定数ある．

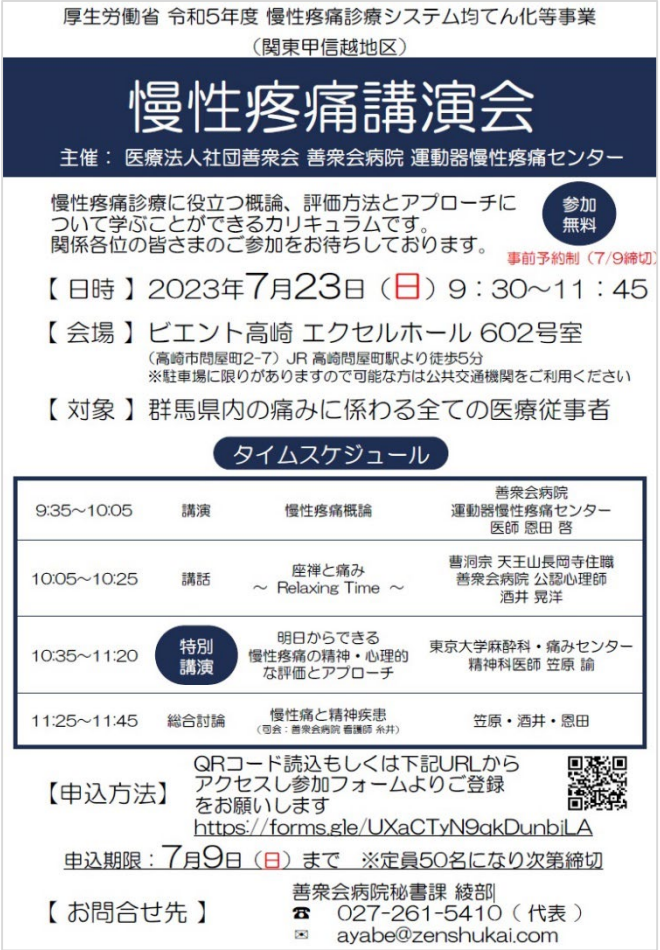
多職種によるリエゾンカンファレンスは，3週間に1回のペース行っている．新患患者のプレゼンテーションを行い，介入方法の検討や通院治療中の患者情報の共有を行っている．また，集学的治療の一環として規則正しい生活習慣の獲得，並び運動習慣の獲得の希望があれば，2週間の短期集学的入院プログラムを用意している．当院は昨年度からシステム均てん化事業に新たに参画をさせて頂いている．今年度は，講演会と研修会の計2回，初めての対面式での運営を行った．

3. 令和5年度 厚生労働省 慢性疼痛診療システム均てん化事業

① 慢性疼痛診療研修会 in 群馬

主　　催：善衆会病院 運動器慢性疼痛センター
日　　時：R5.7.23（日）
開催方法：現地開催
参加人数：45名
　　医師:7名, 看護師:5名, 心理士:6名, 薬剤師:1名, 理学療法士:22名,
　　作業療法士:1名, MSW:1名, ケアマネージャー:1名, 柔道整復師:1名

内　　容： 多職種にわたりご参加をいただいた医師の内訳は、麻酔科医師の参加が4名と多かった。特別講師として、東京大学 麻酔科・痛みセンターの 笠原 諭 先生 をお招きした。タイトルは、“明日からできる 慢性疼痛の精神・心理的 な評価とアプローチ”であった。 総合討論を設けることで、より実臨床に即したトークを引き出すことが出来たのも有意義であったと思われた。



厚生労働省 令和5年度 慢性疼痛診療システム均てん化等事業
（関東甲信越地区）

慢性疼痛講演会

主催： 医療法人社団善衆会 善衆会病院 運動器慢性疼痛センター

慢性疼痛診療に役立つ概論、評価方法とアプローチについて学ぶことができるカリキュラムです。
関係各位の皆さまのご参加をお待ちしております。

参加無料
事前予約制（7/9締切）

【 日時 】2023年7月23日（日）9：30～11：45

【 会場 】ビエント高崎 エクセルホール 602号室
（高崎市問屋町2-7）JR 高崎問屋町駅より徒歩5分
※駐車場に限りがありますので可能な方は公共交通機関をご利用ください

【 対象 】群馬県内の痛みに係わる全ての医療従事者

タイムスケジュール

9:35～10:05	講演	慢性疼痛概論	善衆会病院 運動器慢性疼痛センター 医師 恩田 啓
10:05～10:25	講話	座禅と痛み ～ Relaxing Time ～	曹洞宗 天王山長岡寺住職 善衆会病院 公認心理師 酒井 晃洋
10:35～11:20	特別講演	明日からできる 慢性疼痛の精神・心理的な評価とアプローチ	東京大学麻酔科・痛みセンター 精神科医師 笠原 諭
11:25～11:45	総合討論	慢性痛と精神疾患 （司会：善衆会病院 看護師 糸井）	笠原・酒井・恩田

【申込方法】 QRコード読込もしくは下記URLからアクセスし参加フォームよりご登録をお願いします
https://forms.gle/UXaCTyN9gkDunbiLA

申込期限：7月9日（日）まで　※定員50名になり次第締切

【 お問合せ先 】 善衆会病院秘書課 綾部
☎ 027-261-5410（代表）
✉ ayabe@zenshukai.com

② 慢性疼痛診療研修会

主　　催：善衆会病院 運動器慢性疼痛センター
共　　催：日本いたみ財団
日　　時：R6.2.18（日）
開催方法：現地開催
参加人数：15名
　　医師:2名, 看護師:1名, 心理士:2名, 理学療法士:10名

内　　容：特別講師として星総合病院 理学療法士の 二瓶 健司 先生 をお招きした。タイトルは、“慢性疼痛と運動療法”であった。星総合病院慢性疼痛センターでの取り組み、Exercise-induced hypoalgesia を含む運動療法全般、そして step by step で焦らずペーシングを行うことの重要性をご教示していただいた。また、器質的な疾患についての知識を深めるために、罹患頻度の高い膝痛に対しての治療選択について、保存療法～手術方法まで多岐にわたる治療法の紹介を当院整形外科医の柳澤真也先生からしていただいた。
症例検討では、一次性慢性疼痛、身体症状症の症例を提示した。ファシリテーターは、当院のスタッフが担当した。精神科医の参加もあり、専門的なコメントをいただき、より理解を深めることが出来た.

＜症例検討＞

60代　女性

主訴：
- ✓ 腰背部痛，右下肢後面痛，両踵部痛
- ✓ 右上肢の脱力感，違和感
- ✓ 食欲不振
- ✓ 痛みで寝ているばかりでどうにかしてほしい（家人から）

現病歴：
当院受診２年前；右下肢の違和感出現．
１年前；洗髪中に急性腰痛．その後上記の多彩な症状が徐々に出現・増悪．総合病院，クリニック等を複数受診するも改善なし．
６カ月前；自宅での臥床が大半．トイレは手すりで可能．
４カ月前；食欲不振，体重減少も出現．精神科病院に一時入院するも治療継続拒否にて退院．
その後も症状変化なく，家族の希望で当院受診．

＜事後アンケート；参加者の感想＞

良かった点：

・知識の整理になりました．
・いろいろな職種の方から意見を聞けたこと．
・前回の内容に引き続き学べたので、理解を深めることができました．
・症例を通してディスカッションができた．
・様々な職種が参加している．
・様々な職種の方と情報交換ができました．
・研修時間が適切であった．時間配分が良かった．
グループワークで他職種と意見交換ができ有意義であった．
・基礎的な知識が聞けたこと．
・是非このようなオープンな場を続けて欲しい．

改善してほしい点：

・休憩時間が短かった．

4. 今後の課題

群馬県では2年目の事業となったが、地区代表の順天堂大学 井関 雅子 先生 からのご助言、また日本いたみ財団事務局のご協力により完遂することが出来た。‘慢性疼痛’は、急性疼痛が単に遷延しただけでないこと や 慢性疼痛患者のQOL改善には多職種による集学的治療が有用であることは、最低限，参加者に伝えることが出来たと考えている。一方，非参加者には未だ慢性疼痛自体の認知度は低いことが推測され、引き続き活動を継続する必要がある。参加者の募集において、現行は県内の病院で痛み診療に関わる部署宛に案内状を郵送しているが、今後、参加人数を安定的に確保するためにも、協会等のメーリングリストを利用した案内もまずはコメディカルから行っていく予定である。